

接兩婿相謂爲亞、爾雅文、劉氏依之、爾雅釋文云、亞又作姪、故源君引釋名亦作姪、但古無姪字、玉篇、姪、姻、姪也、又後漢陣度碑有姪字、

〔伊呂波字類抄安人倫〕姪アヒムコ、兩聲相謂曰姪、

〔倭訓栞中編一〕あひやけ○中 あひむこは姪也、兩婿也、と注せり、連襟とも見ゆ、

〔釋親考〕兩婿相謂爲亞アヒムコ

郭氏曰、詩云、瑣瑣姻亞、今江東人呼同門爲僚婿、丘氏曰、前代謂之僚婿、俗謂之連襟、友婿、

〔新撰字鏡親族〕媵戸 媵奈 媵三 字與女

〔倭名類聚抄二〕媵婦 爾雅云、子之妻爲媵和名、又云、夫之媵也、

〔箋注倭名類聚抄婦〕媵婦、按女子謂弟之妻亦爲媵、見下條○媵、又按古謂女子爲媵、又謂妻爲媵、男女

類、婦人條詳之、謂子之妻爲媵、女子謂弟之妻爲媵、皆轉注也、契冲曰、與女蓋呼女義、

〔隣女晤言二〕媵婦

和名抄云、爾雅云、子之妻爲媵和名、又云、媵婦、爾雅云、女子謂兄之妻爲媵和名、弟之妻爲媵和名、母之呼與女、父

上、已、貝原氏日本釋名に、よめはよはめなり、よはは、わかくしてちからよはき意、たをやめの意

なりと云々、然るにたをやめは、和名抄に、別に婦人をあげて云、日本紀云、手弱女人和名太、い

へり、よめとおなじ訓にてはあるべからず、延喜式大殿祭祀詞に、夜女乃伊須々伎伊豆都志伎

事無久とあるによれば、夜の殿につかふるわかき女といふ心にや、兄の妻をもよめとよぶを

おもへば、よはめの心にはあらしかし、

〔伊呂波字類抄人倫〕婦子 妻メ 曰婦

〔倭訓栞前編三十六〕よめ 婦をいふ、弱女の義也、手弱女人といへる意也、靈異記の歌にも、なれを

そよめにほしと、よめり、日本紀に、嬪又媛をもよめり、新撰字鏡には、媵、媵とも、に訓せり、皆義